

特集にあたって

特集

対馬が描く、 国境の物語と未来への航路

国境。その言葉に馴染みのある日本人がどれほどいるだろう。国と国との境界を意味する国境は、国や地域の架け橋であり、また時には人の行き来を阻む目に見えない壁でもある。

日本は海に囲まれた島国である。この島国日本の「国境」とはどこなのか。それもまた「島」なのだ。離島と呼ばれる小さな島々が日本の国境を担っている。

世界各地の国境では今も紛争が少なくない。しかし日本では国境が離島ということもあるかもしれないが、多くの国民が直接巻き込まれるような紛争は起こっていない。

不思議な島がある。朝鮮半島に近い島でありながら、日本の国境を担っている「対馬」だ。天気の良い日には対馬から韓国・釜山の街並みも望めるという。現在でも釜山との間には定期船が毎日就航しており、多くの韓国人が島を訪れている。関係が良好なときには異国と我が国を結びつける架け橋となり、関係が悪化すれば防壁ともなる国境の島。古くから日本で国境を感じることができた数少ない場所、異国を常に意識できる対馬はこれまでどのような歴史をたどり、現在まで国境であり続けてきたのだろうか。また、この先どのような未来を描くのであろうか。

対馬を通して、日本にもある国境の在り方をあらためて意識してみよう。

① 佐護平野の稲田／佐治雅之
② 敵原の宗氏旧城下武家屋敷通りに残る石塀／佐治雅之
③ 網代の漣痕／佐治雅之
地図／対馬市



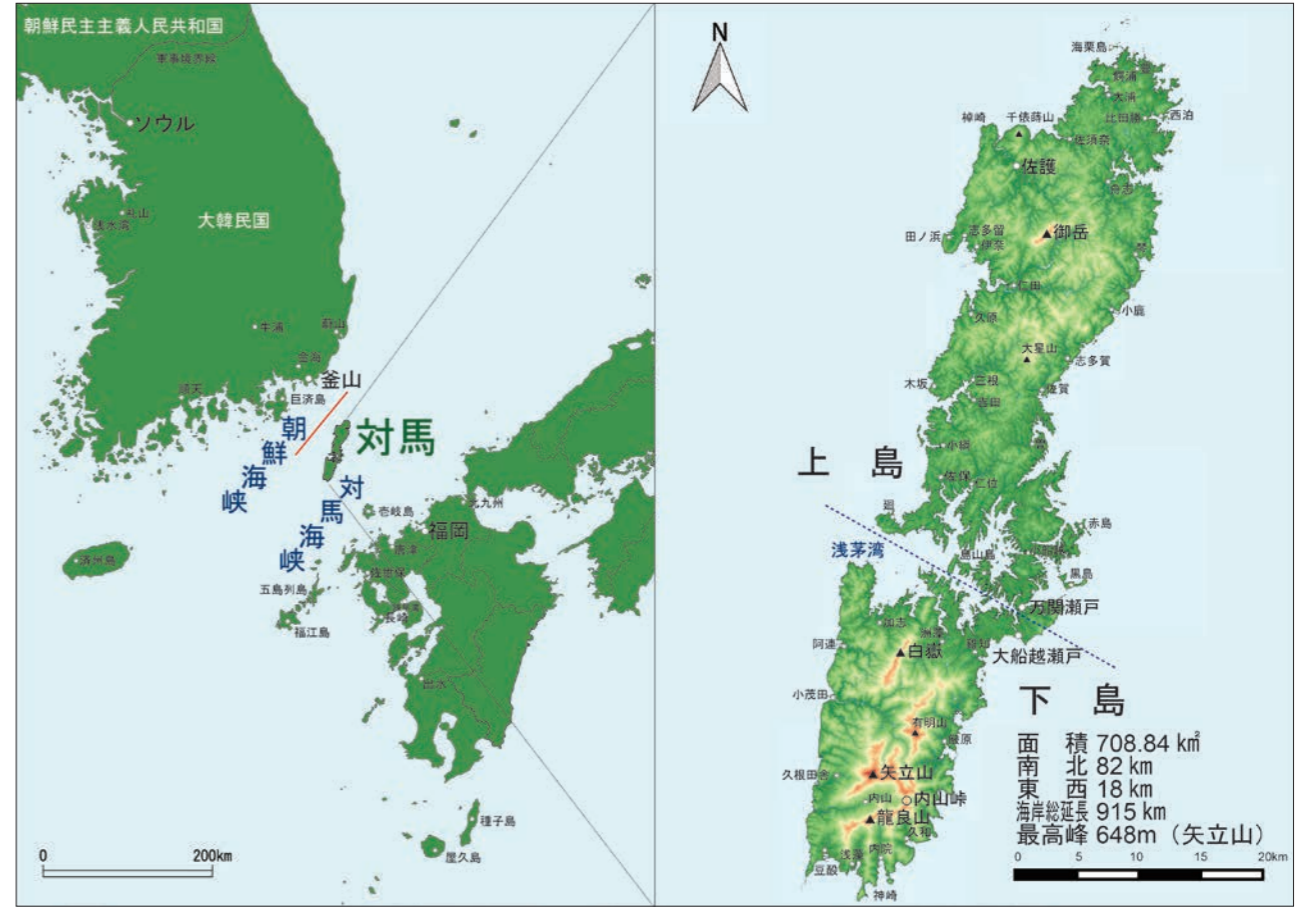
①



②



③



年代	対馬・関連事項	日本	朝鮮半島	中国
約7,200年～6,400年前	越古遺跡	縄文時代		
3世紀	『魏志倭人伝』に対馬国の記述。「南北市糶」の中継地	弥生時代	原三国時代	秦・漢
4～6世紀	人・文物の往来が活発化、対馬は海上交通の節点	古墳時代	三国時代	三国時代・晋・南北朝
663年 667年	白村江の戦い。翌年、対馬に防人配置 金城築城。対馬が国家防衛拠点に	飛鳥時代 奈良時代	高句麗・百濟・新羅	隋
9世紀	新羅海賊の襲来。対馬島司・郡司を中心とする自衛体制強化へ	平安時代	新羅・統一新羅	唐
1019年	刀伊の入侵。女真族が対馬・宍岐、筑前、肥前を襲撃	鎌倉時代	高麗	五代十国
1274年	文永の役。元・高麗軍が対馬に上陸。宗資国等と合戦	南北朝・室町時代		宋
14～15世紀 1419年 15世紀	前期倭寇問題を背景に、宗氏が日朝外交を担う 応永の外寇。朝鮮軍が対馬に侵攻 文引制度成立。対馬が日朝通交の窓口	安土桃山時代 江戸時代	李氏朝鮮	元
1592～1598年	文禄・慶長の役。対馬は兵站・交渉の前線	明治時代		明
1635年	柳川一件。対馬宗家の国書偽造が白日の下にさらされる	大正時代		清
19世紀後半	列強の進出、対馬海峡の戦略的重要性増大	昭和時代		清
1884年 明治～昭和初	清仏戦争。対馬要塞化の契機 対馬要塞（全31か所）建設	現代		清～中華民国
1945年 21世紀	要塞撤去・沈黙の時代 近代遺跡として再評価、「野外博物館」構想		大韓帝国～日本統治期 韓国・北朝鮮	中国